

## 第2回 医療のまちづくり検討委員会

【問合せ】保健課 ☎773-6811

3月1日(日)に開催した第1回に続き、4月24日(金)に第2回医療のまちづくり検討委員会を開催しました。医療のまちづくり検討委員会とは、医療を取り巻く市のあり方について、専門分野の学識経験などを有する委員を選任し、市にとってよりよい方向を見出せるような提言を求めるものです。

今回は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、テレビ会議（インターネットによるウェブ会議）システムを利用して開催しました。南魚沼市民病院とゆきぐに大和病院（以下、病院群）の職員5人がゲストスピーカーとして参加し、異なる職場や職種から見た医療現場の現状などを報告した後、委員のみなさんと意見交換や質疑応答などを行いました。（以下、一部抜粋）

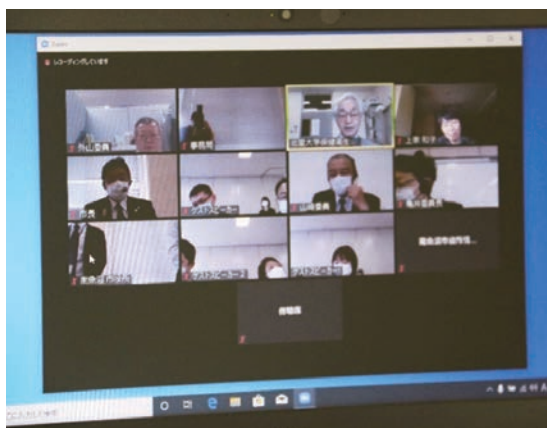
### 病院職員からの発言など

#### 医師不足などについて

- 医師不足から、医師は患者などの対応に追われる状況で余裕がなく、スタッフとのコミュニケーションが十分とれないと感じることもあります。
- 深刻な問題は医師不足ではないでしょうか。病院存続の危機感さえ個人的には感じています。
- 医師たちへの感謝と、今の状況がいつまで続けられるのかという不安に挟まれたような、複雑な気持ちで勤務しています。

#### 病院のあり方について

- 病院群があることで、患者は幅広い医療を受けることができ、近くの病院を選んでかかりつけ医として通える安心感があると思います。その反面、それぞれの病院で人材や医療機器などをそろえるための費用負担が大きいと思います。
- 役割と人員を整理したうえで医療資源を市民病院に集約する必要があると思います。その場合、高齢者などが通いやすくなるような交通手段を確保する必要があると思います。
- 回復期や生活期リハビリの充実のため、リハビリテーション病棟などの設置が必要ではないかと思います。
- 人生の最期で県外の施設に行かなければならないという辛い体験をする人がいます。このようなことにならないよう「南魚沼市地域完結」となるような形で進めてほしいです。



### 委員との質疑

委員：基幹病院構想、市町村合併などの中で、「病院群を1つに集約する」という議論はなかったのでしょうか。

病院職員：医療再編に向けて、「病院のあり方検討委員会」がありました。その中で「あり方」についての話はしましたが、病院の大きさや数をどうするのか、ということはあまり話題にはなっていませんでした。

### 委員からの意見など

- オンライン診療、遠隔医療は南魚沼市のように、患者が遠方に拡散しており、医師や看護師が不足している地域にこそ必要だと感じます。在宅医療の維持に向けてこれらの導入を検討してもらいたいと思います。
- 病院を1つに集約するという方向も検討する必要があると思いますが、オンライン診療、遠隔診療などを用いて、地域の住民がこれまでの医療サービスを受けることができるのかというところが課題だと思います。
- 多くの論点が浮かび上がってきますが、絞って掘り下げて多様な角度から多くの人の意見や議論が必要です。

■詳しくは、市ウェブサイト  
（「医療のまちづくり検討委員会」  
で検索）をご覧ください。

